

『同志社女子大学 学術研究年報』



表記は、同志社女子大学が大学に昇格（昭24）した翌年度（片桐哲学長）から毎年欠かさず刊行してきた研究機関誌である。昨年

で二十六巻を数え、本年度も十一月出版の予定である。以下、この機関誌の特色を一、二紹介したあと、本学の研究活動の足跡を表に よって示してみたいと思う。

『年報』は、寄稿者が専任教師全員であるため、専門を異にする論文を掲載した総合研究誌である。この性格は、頁数増加で製本に支障が生じ、三部に分冊されるようになった今も継承されている。同じ大学で研究する者が専門外の論文に互いに接し得るのは、啓蒙と親睦に役立つといえよう。一方、この総合性にもマイナスがないわけではない。それは

広く学界に送り出した時に生じる不便である。全国いずれの大学・図書館も、寄贈研究誌は専門別に分類されると思うからである。しかし、このマイナス面も、分冊になった現在は大半消失したはずである。

次に、『年報』では、提出した論文は余程でない限り全部掲載される。この編集姿勢に対しては、特に初期の頃、学内に強い批判があったことも付記せねばならない。ところが、あらゆる専門にわたり高度の批評機関を設けることは、当時の教員組織では困難があり、結局、評価はそれぞれの学界に任せられたわけである。当初より極めて厳格な編集方針で臨み、没原稿を続出していたら、私など筆が畏縮して寄稿する気にならなかつたと思う。要は、執筆者がこの伝承のもつ奨励的な意味を理解し、各自の責任の重さを感じることはなかるうか。そうすることに、

『年報』は今後ますます充実したものになるう。

なお、論文の内容とか質については、私の専門外のものが大部分なので、今ここに所感を述べる資格を私はもたない。

（女子大学教授・瀧山季乃）

『同志社女子大学学術研究年報』 I—XXVI

(昭 25. 11—50. 11)

巻	発行年 行 月	頁 数	論文数 (書評を含む)					備 考
			一 般 教育部門	英 学 文 科	音 学 楽 科	家 学 政 部		
I	25. 11	232	2	6	1	3		
II	27. 1	228	2	6	1	6		
III	28. 2	226	1	8	2	7	既刊目次添付	
IV	29. 2	192	1	7	1	6	同 上	
V	30. 2	171	2	6	1	3	同 上	
VI	30. 12	291	5	10	3	4	同 上	
VII	31. 12	292	1	7	3	5	同 上	
VIII	32. 12	308	2	6	3	6	同 上	
IX	33. 12	308	1	5	3	5	同 上	
X	34. 12	522	2	9	5	11	同 上	
XI	35. 12	404	3	9	5	3	同 上	
XII	36. 12	342	5	4	4	10	同 上	
XIII	37. 12	454	8	8	3	10	同 上	
XIV	38. 12	417	6	8	3	6	同 上	
XV	39. 12	459	11	9	3	3	同 上	
XVI	40. 12	517	7	10	3	4	同 上	
XVII	41. 12	471	10	9	4	4	同 上	
XVIII	42. 12	425	10	5	4	6	同 上	
XIX	43. 11	399	5	8	3	6	同 上	
XX	44. 11	508	8	8	3	9	同 上	
XXI	45. 11	467	5	11	2	10		
XXII	46. 11	529	7	13	3	9		
XXIII	47. 11	I. 265		11			論文数増加のため 3冊に分冊	
		II. 242				14		
		III. 40	5		3			
XXIV	48. 11	I. 228		10			同 上	
		II. 141				11		
		III. 131 31	9		3			
XXV	49. 11	I. 217		9			同 上	
		II. 55				5		
		III. 145 41	9		3			
XXVI	50. 11	I. 117		7			同 上	
		II. 142				6		
		III. 151 50	8		3			
総 計		10, 239	135	209	75	172		